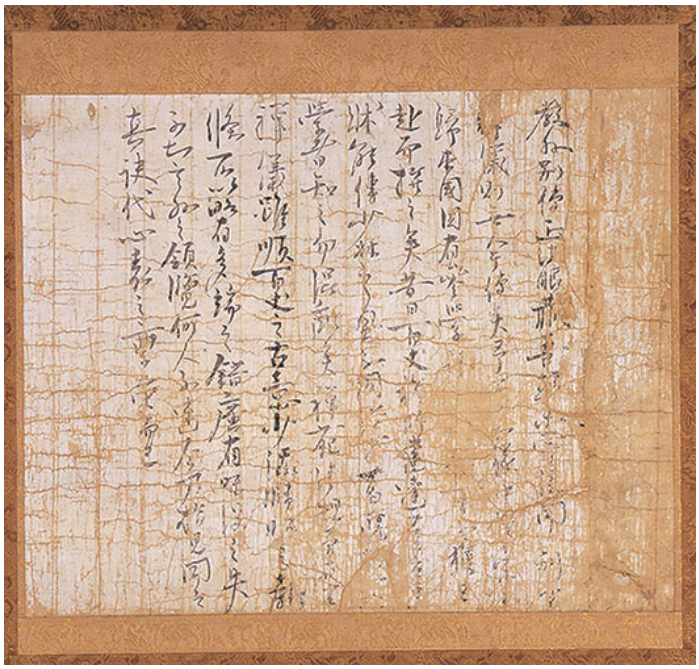

普勧坐禅儀撰述記／道元筆／紙本墨書／縦 27.7×横 34.5 ㎝／鎌倉時代　嘉禄 3（1227）年

普勧坐禅儀撰述由来とも呼ばれる。本書は、道元禅師が自ら記したもので、『普勧坐禅儀』を撰述した由来が記されている。

本書において、道元禅師は、いまだ日本において、正しく伝えられた仏の教えを聞いたことがないとし、坐禅の指南書である「坐禅儀」も今に伝わっていないことを述べる。嘉禄 3 年(1227)に中国より帰国した道元禅師は、参学者より坐禅儀を撰述するよう請われ、その依頼を断りえず、「坐禅儀」を撰じたという。この時著されたものが、『普勧坐禅儀』に他ならない。道元禅師は、百丈懐海（749～814）の坐禅儀に則して、達磨の禅風を正しく伝えるため、これまで見聞した修行の秘訣を『普勧坐禅儀』に著したとする。嘉禄三年に著された『普勧坐禅儀』は現存しないが、現在永平寺には、天福元年（1233）に著された道元禅師真筆本『普勧坐禅儀』がある。

なお、本書は、江戸時代中期、面山瑞方（1683～1769）が含蔵寺（熊本県高森町）において入手したものであり、その後、面山から永平寺に献納されたものである。